

^か^ね^か^け^{まつ}
金掛松

— 川尻 —

今から四百年あまり昔のこと、川尻に七堂伽藍^{しちどう がらん}を備えた興王寺^{こうおう じ}という大きなお寺がありました。

ところがこのお寺、伊勢国司^{い せ こと し}北畠^{きたはた}具教^{くけ}と尾張^{お わり}の織田信長が戦った時、惜しくも信長によって焼かれてしまいました。

その時、不思議なことに浜の松が一夜のうちに燃えるような赤い葉となってしまいました。

「わしらの怒りが松にも通じたのか。」

と、村人たちは肩を落とすのでした。

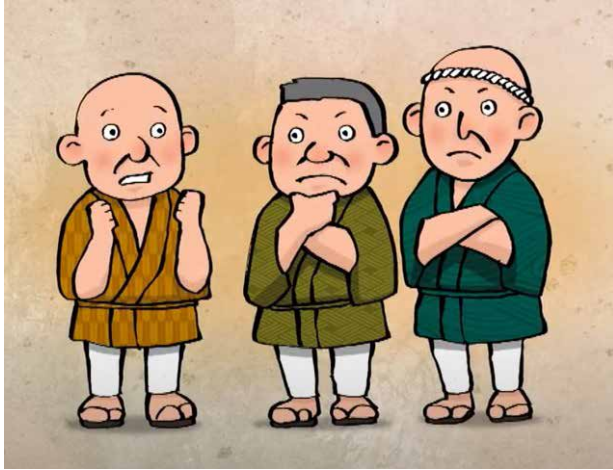
しかし、その松がつぎの夜には元の青々とした葉にもどったのです。

枯れたと思った松が生き返り、青々とした雄大な松の姿にただみとれるばかりでした。

「松でさえ一生懸命生きようとしている。わしらも負けてはおられん。」

と村人たちは、この松に励まされ、漁に精を出すのでした。





そして

「この松に見守ってもらおう。」

と一文銭^{いちもんせん}を松にからげ航海の安全を祈ったのです。

すると海での遭難^{そうなん}もなくなったということです。

村人たちが枯れかけ松と呼び親しまれてきた松がいつの間にか、
金かけ松と言われるようになったのです。

けれどもこの松も安政元年（一八五四年）の大地震で倒れ、その
後枯死してしまいました。

現在の川尻の水門附近にあったということです。



キーワード：みんわ、川尻、興王寺

このお話は、昭和56年に発行された書籍『明和のみんわ』（野田那智子さん編著）をもとにし、登場する人物・建物・その他の名称・読み方などは、原文をしようしています。